防除所レポート

令和８年の果樹におけるカメムシ類の発生経過

本年の果樹におけるカメムシ類の発生経過について、県内の山林（42 地点）での越冬数調査、サクラ（2 地点）での生息密度調査、予察灯等（2 地点）での誘殺数調査およびナシ調査ほ場（20 地点）での被害果調査の結果をまとめましたので、参考にしてください。

［カメムシ類の主な発生種］

本県において果樹を加害する主なカメムシ類はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ等である（写真）。カメムシ類の発生量に対して主要な餌（スギ、ヒノキの果実（球果）等）の量が不足すると果樹園に飛来してウメ、ナシ、カキ等の果実を吸汁加害する。

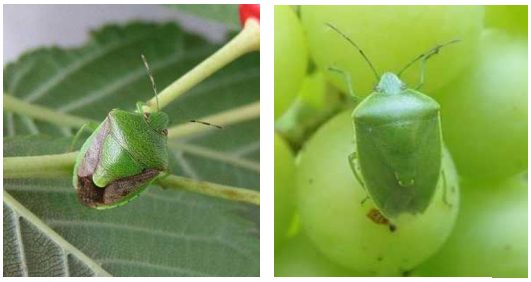


写真　チャバネアオカメムシ（左）とツヤアオカメムシ（右）成虫

［本年の発生状況］

1.　山林でのチャバネアオカメムシの越冬数調査（2 月）

本年 2 月上旬頃に山林の表層土を含んだ落葉を 1 地点当たり 30 リットル採取し、越冬数を調査した結果、越冬成虫数（本年値 2.1 頭、平年値 2.3 頭）は平年並、越冬地点率（本年値 55%、平年値 41%）は平年並～やや高かった。

2.　サクラでのチャバネアオカメムシの生息密度調査（4 月下旬～5 月）

餌となるサクラに移動する時期にサクラ果実（10 結果枝）の生息密度を調査した結果、生息密度（本年値 1.8 頭、平年値 5.0 頭）は平年並～やや低かった。

3.　予察灯・フェロモントラップでの誘殺数調査（4～10 月）

チャバネアオカメムシの越冬成虫は 4 月第 6 半旬から誘殺され、平年並の発生時期であった。かすみがうら市に設置した予察灯における 4～7 月の総誘殺数（本年値 1,267 頭、平年値 612 頭）は平年よりやや多く、8～10 月は平年よりやや少ない～少ない誘殺数で推移した（図）。ただし、大子町に設置したフェロモントラップでは 8 月以降も平年より多い誘殺数で推移し（図）、地域によって誘殺数の推移に差がみられた。

ツヤアオカメムシの越冬成虫は 4 月第 4 半旬から誘殺され、平年より早い発生時期であった。かすみがうら市に設置した予察灯における 4～7 月の総誘殺数（本年値 537 頭、平年値 128 頭）は平年よりやや多く～多く、8～10 月は平年並の誘殺数で推移した（図）。

4.　ナシ調査ほ場での被害果調査（5～9 月）

6 月上旬に被害が認められ、8 月下旬における被害果率（本年値 0.1%、平年値 0.2%）は平年並であった。

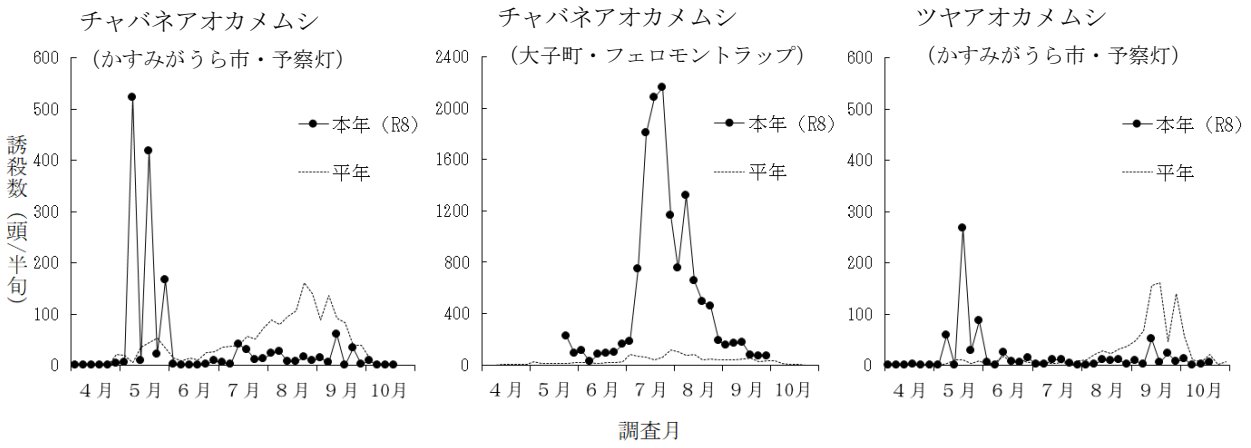


図　チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの誘殺数推移